

【特定非営利活動法人 KHJ 全国ひきこもり家族会連合会について】

KHJ 全国ひきこもり家族会連合会は、1999 年（平成 11 年）に設立された全国ネットワークを有する唯一のひきこもり家族会（当事者団体）です。ひきこもりを抱えたご家族が社会的に孤立しないよう、全国約 60 の家族会と連携し、行政に働きかけながら、より良い支援の実現を目指しています。また、毎年ひきこもりに関する調査・研究も行っております。

また、KHJ 家族会は、当事者団体として、当事者視点からのひきこもり支援の在り方について先駆的な試みを行ってきました。ひきこもりの心理は、往々にして誤解されやすいため、当事者視点からの支援は極めて重要になると考えます。設立以来、協働して取り組んできた有識者、実践者と共に「ひきこもり地域支援ガイドブック」（平成 27 年度）が出版され、ひきこもりの長期高齢化を防ぐための実践的な取り組みについて、ガイドブック執筆者、実践者による研修会が定期的開催されています。平成 29 年度の全 4 回の研修には全国から 287 名が参加し、好評を得ております。

下記、研修会講師の一覧となります。各地で研修会が開催されます折には、お力添えさせていただきたく存じます。なお、各講師への連絡、調整依頼につきましては、KHJ 本部事務局までご一報いただきますようお願い申し上げます。

【研修会 派遣講師一覧について（敬称略：50 音順）】

●池上 正樹（いけがみ まさき）

通信社などの勤務を経てジャーナリスト。日本文藝家協会会員。YAHOO! ニュース個人オナー。

20 年以上にわたって「ひきこもり」関係の取材を続け、1000 人以上の当事者とやりとりしてきた。KHJ 全国ひきこもり家族会連合会を発足当初からサポートし、現在は広報担当理事。東日本大震災後は被災地に入り、ひきこもり当事者が震災でどう行動したかを調査。TV やラジオにも多数出演。2012 年から都内で開かれている対話の場「ひきこもりフューチャーセッション庵-IORI-」の設立メンバー。東京都町田市「ひきこもり」専門部会委員なども務める。著書は『ルポ「8050 問題」～高齢親子“ひきこもり死”の現場から』（河出新書）、『ルポひきこもり未満～レールから外れた人たち』（集英社新書）、『ひきこもる女性たち』（ベスト新書）、『大人のひきこもり』（講談社現代新書）、『ダメダメな人生を変えたいM君と生活保護』（ポプラ新書）、『あのとき、大川小学校で何が起きたのか』（青志社/共著) など。



●石川 良子（いしかわ りょうこ）

松山大学人文学部社会学科教授

※プロフィール準備中（今しばらくお待ちください）

●伊藤 正俊（いとう まさとし）

1991 年 山形県米沢市で「登校拒否の子を持つ親の会」を立ち上げ
1995 年 山形県米沢市で「不登校親の会 山形県ネットワーク」を立ち上げ
2003 年 同会を「ひきこもり家族会」に変更
2005 年 全国引きこもり KHJ 親の会（家族会連合会）山形県支部として参加
2006 年 特定非営利活動法人「から・ころセンター」開設 代表理事就任
ひきこもり本人の居場所を開設・運営



- 2010年 「から・ころセンター」が就労支援事業所として山形県から委託。
その後、就労継続支援B型作業所も受託し、高齢者宅への宅配事業や
レストラン事業を運営
- 2014年 「全国引きこもりKHJ親の会(家族会連合会)」 副理事長に就任
- 2016年 「KHJ全国ひきこもり家族会連合会」に改称し、同年、共同代表に就任

●上田 理香(うえだ りか)

KHJ 全国ひきこもり家族会連合会本部事務局長。家族支援士(日本家族カウンセリング協会認定)。KHJ 認定ピアサポーター。20代の頃、断続的な親子二重の社会的ひきこもりを経験。2012年よりKHJ全国ひきこもり家族会連合会に従事。全国の家族会立ち上げ、取り組みを支援する。2013年より家族会を対象にひきこもりピアサポーター養成研修事業を毎年、企画運営実施。本人や家族、協働する支援者が家族会ピアサポーターとして活躍している。その他、本人家族へのカウンセリング、親の学習会、兄弟姉妹の会、女子会(女性の居場所)を担当。また、KHJ ジャーナル「たびだち」企画編集では当事者のアイデアから活躍の場づくりをサポート。各自治体の講演会では、家族が孤立しない家族支援の重要性を伝えている。2019年度より、東京都ひきこもりに係る支援協議会委員。共著に『ひきこもり大学』(潮出版社)。



●斎藤 まさ子(さいとう まさこ)

長岡崇徳大学 看護学部看護学科教授
新潟大学大学院法学研究科卒業。法学修士。
精神科臨床経験7年、看護専門学校6年の経験を経て、2006年新潟青陵大学に着任。
2014年より同大学教授。2020年4月より現職。共著「地域資源を活かした発達障害のある子どもへの支援ー療育・保育・教育の視点からー」(ウエストーン)、「学生のための精神看護学」(医学書院)、他。ひきこもりの親の会支援プログラムに関する研究等、ひきこもり家族会に関する研究実績多数。「KHJ地域におけるひきこもり支援ガイドブック」(金剛出版)。



●坂本 勲(さかもと いさお)

KHJ 高知県やいろ鳥の会代表、KHJ 全国ひきこもり家族会連合会理事

※プロフィール準備中(今しばらくお待ちください)



●境 泉洋(さかい もとひろ)

宮崎大学教育学部教授。宮崎県生まれ。1999年宮崎大学教育学部卒。2005年早稲田大学 博士(人間科学)。公認心理師、臨床心理士。2004年志學館大学講師、2007年徳島大学准教授、2018年宮崎大学教育学部准教授を経て、2021年1月から現職。
KHJ 全国ひきこもり家族会連合会副理事長、日本臨床心理士会ひきこもり専門委員会副委員長、宮崎県ひきこもり地域支援センターひきこもり受理会議多職種専門チーム、NCNP 精神保健研究所薬物依存研究部客員研究員、認知行動療法研究常任編集委員、認知療法研究常任編集委員。

筆頭著書に「CRAFT ひきこもりの家族支援ワークブック」（金剛出版）、編著書に「地域におけるひきこもり支援ガイドブック」（金剛出版）、共著執筆に「CRAFT 薬物・アルコール依存症からの脱出：あなたの家族を治療につなげるために」（金剛出版）、分担執筆に「認知行動療法の技法と臨床」（日本評論社）、「ひきこもりに出会ったら」（中外医学社）、「『ひきこもり』考」（創元社）などがある。監訳に「CRAFT 依存症患者への治療動機づけ」（金剛出版）、「アルコール依存のための治療ガイド」（金剛出版）などがある。

●田口 ゆりえ（たぐち ゆりえ）



特定非営利活動法人 KHJ 全国ひきこもり家族会連合会 理事

特定非営利活動法人 KHJ 埼玉けやきの会家族会 代表理事

新潟市出身。看護師として大学病院などで勤務。29歳でさいたま市へ転居。2006年、埼玉県ひきこもり親の会に参加。2009年からNPO法人化し代表に就任。月例会、学習会、個別相談、CRAFT認知行動療法を応用した相談支援、居場所、就労支援機関との連携、兄弟姉妹の会など取組みを拡充し日々精力的に活動をおこなっている。「ひきこもりの回復にとって、親子の愛情を立て直し、保持しつづけることが大切。そのために家族会がある」という信念のもとに家族への支援を第一に掲げて活動している。自身の体験、研究と支援の実践における成果を通し、各地のKHJ家族会や地域での講演活動の他、本部主催のピアサポーター養成研修での講師を担当している。具体的で分かりやすいと定評がある。著書に「親亡きあとの子のマネーぷらん」「ひきこもりを生き抜く」。人生のモットーは「コシヒカリのように粘り強く」

●田中 義和（たなか よしかず）

NPO法人なでしこの会理事長、KHJ全国ひきこもり家族会連合会理事

※プロフィール準備中（今しばらくお待ちください）

●田中 敦（たなか あつし）

NPO法人レターポストフレンド相談ネットワーク理事長、札幌学院大学非常勤講師

※プロフィール準備中（今しばらくお待ちください）

●竹中 哲夫（たけなか てつお）

1965年大阪市立大学文学部心理学専攻卒業。

同年京都市職員として京都市児童院（現・京都市児童福祉センター）に着任

1982年より日本福祉大学助教授、教授を経て、2009年退職。現日本福祉大学名誉教授。

臨床心理士。日本福祉大学心理臨床研究センター（心理臨床相談室）研修指導員として、ひきこもり支援に携わる。

著書に『ひきこもり支援論』（明石書店）、『子ども・若者支援地域協議会のミッションと展望 <増補版>長期・年長ひきこもりと若者支援地域ネットワーク』（かがわ出版）他 「KHJ地域におけるひきこもり支援ガイドブック」（金剛出版）。



●日花 睦子（ひばな ちかこ）

大阪虹の会

※プロフィール準備中（今しばらくお待ちください）

●深谷 守貞（ふかや もりさだ）



「特定非営利活動法人 KHJ全国ひきこもり家族会連合会

本部事務局所属 ソーシャルワーカー

上智大学文学部社会福祉学科卒業 社会福祉士

大学卒業後、社会福祉法人東京都社会福祉協議会に入職。30代前半で免疫系希少難病に侵されるが、発症当初は病因不明とされ、心身症による精神疾患と誤診を受ける。誤った診断・服薬等が高じて事業に従事できなくなり、東京都社会福祉協議会を退職。向精神薬の過剰投与により幻聴・幻覚が生じるまでになり、更に自身の生きづらさに囚われて2年以上ひきこもる。

KHJ 東東京支部「楽の会リーラ」の居場所参加をきっかけに、社会復帰に至った。

2014年より「特定非営利活動法人 KHJ全国ひきこもり家族会連合会」本部・ソーシャルワーカーとして、ひきこもり支援・ソーシャルワーク業務に従事。

現在、支援者向けの研修会等の企画運営、ひきこもり・家族会に関する調査研究事業、ひきこもり世帯、8050世帯へのソーシャルワーク業務等に従事。

「KHJひきこもり兄弟姉妹の会」を毎月担当。

●藤岡 清人（ふじおか きよと）

<学業・勤務関係>

1975 広島大学工学部電子工学科卒業

1977 広島大学大学院工学研究科電気工学専攻修士課程修了

1977 中国電力入社 系統運用部・研究所副主査・工務部副長・鳥取支店企画担当課長・企画室マネージャー・営業所長等を歴任。情報通信部門通信システム部長を最後に退職。

2007 グループ企業役員に転籍し、取締役総務企画部長としてCSR関係をはじめ、人事・労務・総務・企画関係等を含め情報関係も担当。障害者雇用についても尽力する。情報関係では営業支援システムの導入を図る。建設業の経営管理責任者を務める。

2015 グループ企業役員を任期満了にて退任。

<KHJ 家族会関係>

2002.1 KHJ 広島支部立ち上げセミナーに参加し、KHJ 広島「もみじの会」事務局長に就任。会報作成に従事。その後、元当事者の代表辞任に伴い代表に就任。

2013 厚労省社会福祉事業に基づくひきこもりピアサポーター養成講座受講

2015 内閣府アウトリーチ研修受講

2015 WAM 事業として KHJ 本部、KHJ 全国支部と連携し居場所事業を実施。

2016 KHJ 本部理事に就任

2019 広島県地域福祉支援計画策定委員会委員に就任

●船越 明子（ふなこし あきこ）



船越明子（ふなこし あきこ）神戸市看護大学 教授。神戸市出身。
ひきこもり青年をもつ親の支援については、ライフワークとして取り組んでおり、
家族会、ひきこもり地域支援センター、保健センター等で講演や助言活動を行っている。現在は、社会的に孤立状態にある人への訪問支援のノウハウを明らかにする調査研究に力を入れている。著書に「ひきこもり親の歩みと子どもの変化」（単著、新曜社）、地域における引きこもり支援ガイドブック（共著、金剛出版）など。

●丸山 康彦（まるやま やすひこ）



不登校・ひきこもり生活研究所「ヒューマン・スタジオ」代表兼相談員。
不登校のため高校を7年かけて卒業。
大学卒業後、高校講師、ひきこもりを経て1999年4月に個人事務所を開設し、
青少年支援の学習と活動を開始。
2001年 個人で同スタジオを設立し、不登校・ひきこもりの相談のほか、メールマガジンの執筆配信、家族会やセミナーの開催など多様な関連業務を企画実施。
当事者の心理と対応のあり方を伝える家族支援スキルに定評があり、2021年から藤沢市社会福祉協議会職員への助言・研修・相談業務補助を担当している。
代表著書『不登校・ひきこもりが終わるときー体験者が当事者と家族に語る、理解と対応の道しるべ』（ライフサポート社）、「KHJ 地域におけるひきこもり支援ガイドブック」（共著）。

●山本 洋見（やまもと ひろみ）

KHJ 全国ひきこもり家族会連合会理事。NPO法人てくてく 理事長。
（法）日本家族カウンセリング協会会員。カウンセラー・家族相談士・家族支援士
厚労省認定ひきこもりピアサポーター



2005年のぞみの会設立
ひきこもり家族会をはじめ
2011年NPO法人てくてくを設立
以来、ひきこもり・ニートの家族会、居場所を運営
カウンセラーとして相談、アウトリーチをしている。

<ひきこもり社会参加支援として農園「てくてくファーム」を運営>

- ・ ガーデンアドバイザー
- ・ RHS J 英国王立園芸協会会員
- ・ ガーデニングマスター
- ・ (社)日本家庭園芸普及協会認定
グリーンアドバイザー ・花咲く静岡アドバイザー
- ・ インテリア コーディネーター No.981615
- ・ 日本色彩研究所 色彩指導員認定 No.179